

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	ナノ構造メタ界面の力学・マルチフィジックス特性設計
研究代表者	北村 隆行 (京都大学・大学院工学研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、界面の阻害要因を有益な機能にナノレベルでデザインするという独創的な着想による提案で、ナノ構造メタ界面に発現する特異な特性の支配因子とその機構を、マルチスケール・マルチフィジックス解析とその場観察実験によって解明しようとするものである。さらに、異材界面にナノレベルの離散的な集積構造を配置する技術を発展させ、力学的機能のみならず誘電性等のマルチフィジックス機能の創成を目指しており、学術的知見の創造性及び波及効果は極めて高い。</p> <p>また、応募者らはこれまで、ナノ構造体力学分野において世界をリードする先駆的な研究を推進してきており、高い研究遂行能力が認められることから、十分な研究成果が期待できる。</p>